

夏の学校に 18 大学から参加

韓国の住宅・都市を学ぶ

韓国の大学関係者の協力を得て、夏の学校を9月2日～5日、はじめての海外—ソウル市で開催しました。「韓国の住宅・都市を学ぶ」をテーマに専門家のレクチャーを受け、3ヶ所の現地見学を通じて具体的に学びました。

姫路工業大学、琉球大学、平安女学院大学、実践女子大学、京都府立大学、神戸大学など全国18大学から67名、DC3年から1回生までの幅広い学年から参加しました。女子は75%、リピーター参加は10人でした。会員・スタッフの参加は14名でした。

会場のソウル教育文化会館は、仁川空港よりバスで1時間ほど東にあり、車窓より林立する高層住宅群を見ることができました。サッカーW杯やアジア大会の印象と同様に建築工事のラッシュから活気ある国の様子が覗えました。

第1日目は、見学地に関する概論として3つの講義を聴きました。以下はその要約です。

■第1講義 ソウル市の伝統的な町並み保存

宋 寅豪 教授 (ソウル市立大学建築工学科)

北村の韓屋住宅地は、もとは貴族や武士など高い階級の人々が暮らしていましたが、近代、

家を売るため細分化し、韓屋が誕生しました。その後、改良韓屋として不便な点を改良し、ガラスやタイルを利用した韓屋が造られるようになりました。さらに1935年頃、宅地と住宅が同時に開発されて、近代的な都市住



＜北村地区の韓屋住宅＞

宅である都市型韓屋が発展しました。

地域は、1984年に韓屋保存地区に指定され、1999年には住民によるまちづくり要求も行われ、ソウル都心基本計画が制定されました。総合政策のもと韓屋登録制度が施行されました。また、都市開発公社による買入が進められ、北村まちづくり基本計画も樹立されました。北村まちづくり元年の成果としては、登録された韓屋100戸(12%)、示範買入10戸、修復支援67戸、地価30%上昇、減室率減少などが挙げられ、北村の韓屋の生命力が回復しているといえます。

■第2講義 ソウル市の高層高密度マンション問題

張 喜淳 教授 (江原大学不動産学科)

韓国の共同住宅は、アパート(5F以上で1000個規模、多くの世帯がおのおの独立な居住生活)、聯立住宅(延べ面積660㎡以下、4F以下)、多世帯住宅(4F以下で一棟の中に10世帯以内が居住。区分所有が認められる)、多人口住宅(一棟の中で数世帯が独立した生活をする。所有者は家主)の4種に大別されます。

韓国は、持ち家政策の影響で賃貸住宅が少なく、韓国全土11,472千戸のうち、5231千戸がアパート、4669千戸が一戸建て、813千戸が聯立住宅、453千戸が多世帯住宅です。近年アパー

も く じ

夏の学校に18大学から参加	1
フォーラム/大阪・なにわのすまい文化の伝統と遺産 谷直樹	6
＜西山先生と私＞	
師たるもの、かくあらまほしく…されど 片寄俊秀	9
今も新鮮な饞別の言葉 柳沢 厚	12
＜トピックス＞	
ホームレス住宅事情 瀬口哲夫	14
＜会員だより＞	
消防防災研究は面白い 関沢 愛	18
中京圏のマンション事情雑感 鈴木博志	18
資料サロン/西山文庫を訪ねて 長沼忠兵衛	19